

ブロードバンド加入が急増中のアイルランド 2012年に向けNGN整備へ

アイルランドでは、固定系トップの通信事業者であるEircomがNGNの構築を進めている。移動系ではVodafoneが携帯電話とDSLをセットで提供する準備を進めている。

文◎藤田 健(本誌)

今年は、日本とアイルランドの国交樹立50周年に当たる。これを契機に現地時間の9月18日～20日、アイルランド政府商務庁主催の「アイルランドITミッション」が開催された。日本企業と「IT立国アイルランド」の通信・情報技術企業との交流を目的としたものだ。

本稿では、アイルランドの固定系、移動系を代表するキャリアであるEircomとVodafone Irelandの事業展開を見ることで同国の通信事情をレポートするとともに、現在日本市場にアプローチ中のアイルランドのIT企業4社の取り組みを紹介する。

IPTVサービスを準備

Eircomは日本のNTTに相当する

最大の通信事業者であり、アイルランドの固定系市場の68%のシェアを獲得している。また、2005年には移動系市場で3位のMeteorを買収した。若者をメインターゲットとしたプリペイド専用キャリアという。

EUマーケットは現在、移動系市場が急伸しており、2010年には固定系市場を上回ると予想されている。アイルランドでも同様であり、移動系の普及が目覚ましい。同国は400万強の人口のうち、首都・ダブリンに125万～150万人が集中しており、全国に通信サービスを展開するには移動系のほうが経済的という事情もある。Meteorを買収した理由には、こうした背景もあるとみられる。

とはいえ、現状ではまだ固定通信

が中心であり、Eircomの利益の約70%が固定系だ。

固定系の利益を支えているのはまだまだ電話だ。だが、ここに来てブロードバンドサービスも利益に寄与するようになってきている。アイルランドではブロードバンドサービスの開始は遅かったが、この1年の市場成長スピードは世界中で最も早いといい、普及率は全家庭の16～17%に達した。1年前はEU各国の中では最下位に近い普及率だったが、現在は中位に位置している。

サービスはメタル線を利用したDSLがメインだ。現在、全国で1Mbpsサービスを提供することを公約して展開中だが、前述のように都市部に人口が集中しているため、地方では採算性の問題で提供が難しいのが実情だ。このため、助成金による協力を政府に仰いでいる。

他方で同社は、無線LANを利用した公衆無線LANスポットサービスも提供中だ。ダブリン空港や各ホテル、スターバックスやマクドナルドといったファーストフード店等、全国に1000以上のスポットを設けている。法人向けでは現在、DSLサービスとセットで提供しており、ユーザーも増えているという。

移動系では買収したMeteorが急速にシェアを伸ばしている。従来アイルランドでは、VodafoneとO2が激しい競争を繰り広げてきたが、そこ



アイルランドの固定系通信事業者であるEircomは、「ホットスポット」サービスも展開しており、自社の公衆電話でも利用できるようにしている